

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.49 2012 8/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)



ナカノシマ大学

「古地図で読み解く
大阪の歴史」

本渡 章

(作家)

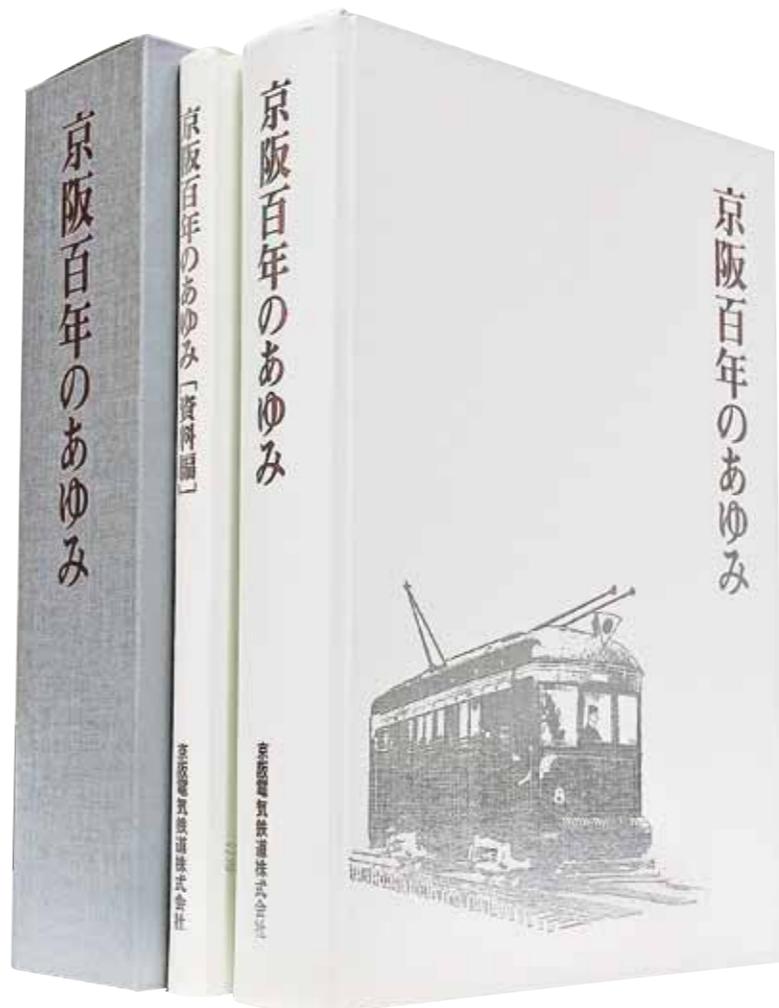
申し込み受付中!

社史を編む。

社史を編む。

社史とは読んで字のごとく会社の歴史。企業や団体が節目に際して発行するものだが、その内容は大阪の歴史そのものであり、社会の鏡でもある。意外に奥深くて面白い社史の世界と、それに携わる人たちの横顔に注目してみよう。

取材文／江口由夏 大迫力(共に本誌) 取材協力／大阪府立中之島図書館
◎今回の特集で紹介している企業の社史の多くは、大阪府立中之島図書館にて閲覧することができます。



京阪電車 『京阪百年のあゆみ』



30のテーマ史は、1話ごとに完結する短篇集のような完成度。短いながらも、濃密に編まれている。



資料編では、創業以来の京阪電車を代表する主な車両を写真とイラスト、車体の分析付きで紹介。鉄道好きは必見だ。

島民企業の社史レビュー① 大大阪時代の記憶 百年史

ここ数年、大阪の企業の百年史が相次いで刊行されている。100年前と言えば、大阪が近代都市として拡大を始め、「大大阪」と呼ばれるようになりつつある頃。その時代に生まれた企業が、続々と百周年を迎えているわけだ。



上／「あれもそうだったのか!」と知って楽しくなる工事実績一覧。下／進水式で進呈される貴重な絵葉書コレクション。

会社に対する愛着ひしひし。大阪に根ざす鉄道物語。

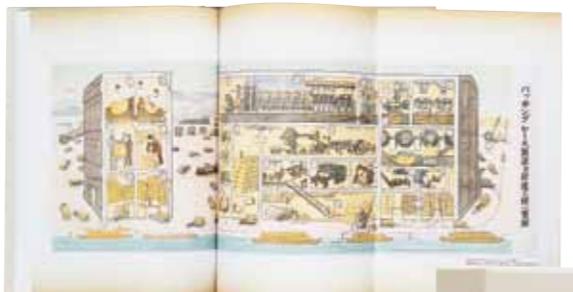
開業から現在までを丁寧に追った通史部分ももちろんだが、その充実ぶりに目を見張るのが本編後半のテーマ史だ。京阪電鉄創立委員長である渋沢栄一の経営思想や初代経営トップの渡邊嘉一の生い立ちなど、社史ではあまり見られないテーマを掘り下げているのが特徴だ。路線の拡大についても、淀屋橋や中之島への新線延長工事といった記憶に新しい出来事だけでなく、蒲生-守口間の高架複々線化工事、大津線の歴史などは「こんなドラマもあったのか」と発見の連続。通史を補って余りある秀逸なショートストーリーになっている。

「乗車券ギャラリー」や歴代のイメージキャラクターを紹介するページも懐かしいところだが、極めつけは全30編のラストを飾る「未完の社史」。事情によってリアルタイムでは世に出ることのなかった戦前の社史を紹介するもので、先人への敬意がひしひしと伝わってくる。昨年、鉄道に関する優れた著作物を讃える「鳥秀雄記念優秀著作賞」に顕彰されたのも、社史にかけての思いが結実したものでしょう。

魅せるプロ根性は、社史にもしっかり反映。

造船業界の老舗として知られるサノヤス。学園アニメのような劇画調のテレビCM「造船番長」で知っている人もいるかもしれない。フェリーからタンカーまで造り上げる技術力は海上だけに留まらず、大型テーマパークの絶叫アトラクションやHEP FIVEの赤い観覧車といった大阪のランドマークまでも手がけている。

100年の歴史をすっきりとまとめているが、「実は大戦中の空襲に加え、度重なる本社の移転や工場再編などにより、多くの史料が失われていて苦労したんです」と編集に関わった総務室長の田代昌利さんは苦笑する。しかし、進水式の際に関係者へ配られる船の絵葉書コレクションや、幅広いジャンルの部門別工事実績一覧表などカラー資料を巧みに配置。見せ方に威力を発揮するサノヤスらしく、社史も大きめの文字サイズやカラー写真を多用するなど、ビジュアルへのこだわりが見える。

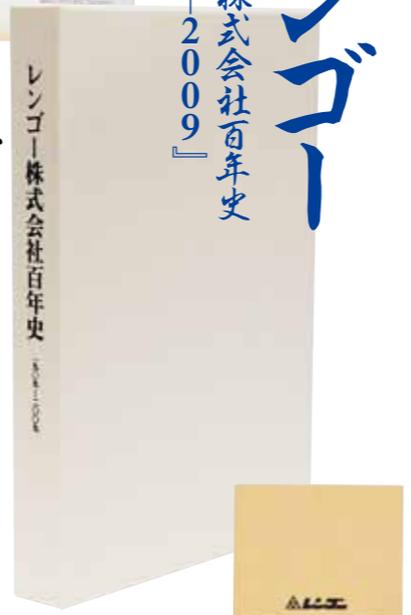


原料から段ボールができあがるまでの一覧図は、昭和13年発行のパンフレットから複製掲載されたもの。

段ボールの名付け親だからなせる、開いて楽しい産業ヒストリー。

「多くの会社の社史を拝見しましたが、どの会社も創業者が最初は失敗を重ねながらも、やがて立派な会社に育て上げるストーリーが感動的でした」と編集当時を振り返るのは、社史編集室に在籍していた同社の下條勝正さん。明治42年に創業者が試行錯誤を繰り返した末に生み出した包装材を「段ボール」と名付けたレンゴーは、大正12年の関東大震災を機に、東京から大阪へ経営拠点を移した。

段ボール誕生に至るまでの創業者の流浪物語などは、かつて刊行された『八十年史』を踏襲しつつ、文字ばかりではなく、目で見て歴史の流れがわかるようにと、ページの上半分は文字テキスト、下半分は写真やイラストというレイアウトに。また、「特別編」と題されたテーマ史では、原料の紙から製品の段ボールができあがるまでの製造工程をイラスト化した一覧図や、各地の工場の開設の経緯を当時の経済や産業背景と絡めつつ紹介し、業界を知る一冊としても興味深い。



保存用ケースは、もちろん段ボール製である。

レンゴー 『レンゴー株式会社百年史』 1909—2009

サノヤス・ヒシノ明昌 『サノヤス・ヒシノ明昌100年史 1911—2011』



ケタ違い! 「道修町系」社史の重み。

百年史と聞くとすごいが、200年300年とさらなる歴史を秘めた社史がある。中央区道修町にある製薬会社の社史だ。本編と資料編合わせて1884ページを誇る武田薬品工業の『武田二百年史』、タイトルに刻まれた数字に圧倒的な歴史を感じる旧田辺製薬『田辺製薬三百年史』など、国を代表する老舗ばかり。この社史クラスになると、創業年は江戸時代にまで及ぶ(あまりにも歴史がありすぎて、編纂時に正しい創業年月日が発覚したという裏話も)。そしてこれらに共通するのは、歴史書としての価値だ。初代大坂城築城までさかのぼり、城下町の形成や洋薬や和漢薬の普及の流れに至るまで網羅する充実ぶりである。



島民企業の社史レビュー② 名場面がここにあり。

社史は企業だけでなく、街の名場面の宝庫でもある。じっくり読み込まずとも、写真を眺めているだけでも「懐かしい」「この時、覚えてる！」と、アルバムをめくるような楽しみがあるはずだ。

ロイヤルホテル 『リーガロイヤルホテル70年の歩み』 1935—2005



リーガロイヤルホテルの前身「新大阪ホテル」誕生を紹介するページ。ページごとに名場面があふれている。

試行錯誤を重ねてきた歴史も、 「迎賓館」ならではの。

当時の写真がふんだんに掲載され見ごたえがあるのは、「感動のあゆみ」と題されたホテルの歴史を綴るページ。大正15年(1926)、かねてから持ち上がっていた大阪での大博覧会開催をにらみ、近代的ホテル建設の相談会が開かれる。各界からの待望の声を受けて誕生し、戦後も「世界のホテルとして大阪で飛翔するために」発展してきた歴史は、さすがは関西の迎賓館と思わせる。

配給される少ない食糧をなんとかやりくりしながら料理を出していたという戦時中のエピソードや、西洋料理がまだ珍しかった昭和40年代、料理スタッフは休みのたびに有名レストランへ足を運んで研究を重ねていたという秘話など、「食」にまつわる話はやはり身近で面白い。現在もホテルに飾られている絵画や、工芸品で彩られた「リーチバー」の紹介も値打ちがある。

建築好きは必見。 ビル一筋の会社のあゆみ。

「建築工事に臨む布陣は(…)設計監督渡辺 節、製図主任村野藤吾、構造上の強度に関する設計は(…)内藤多伸という最強のスタッフである」。本編最初、大正14年(1925)に竣工した「ダイビル」についての誇らしい記述である。それに続いて、建てられた当時の外観や内装など貴重な写真が満載。見ているだけでも懐かしい。第4章に登場する「新ダイビル」と比べると、「ダイビル」が壮麗な近代建築の、「新ダイビル」は機能美を誇る戦後建築の、それぞれ代表的存在であることに気づく。ダイビルの歴史は建築史そのものと言っても過言ではないだろう。

中之島の「ダイビル」は現在建替工事中で、創業90周年となる来年の2月に新ビル竣工を迎える。堂島にあった「新ダイビル」も現在建替工事中で、2015年春には竣工予定。100周年の際にはぜひこれらについても書かれた社史が編まれてほしい。



「ダイビル」と言えば、このエレベーターホールを思い浮かべる人が多いかもしれない。ビルの内部の写真も多い。

朝日新聞社 『朝日新聞社史』



新聞社の使命感が伝わる、 24年かけた超大作。

重厚なものが多い社史の中でも、箱入り・全4巻セットはなかなかない。しかも、中を開けばびっしり2段組レイアウトの超本格派である。明治・大正・昭和戦前・昭和戦後と時代ごとに分かれ、草創期こそ新聞社の創業にまつわる記述が多いものの、その後は誰もが知る大事件の概要と、それをどのように報じたのかが記されていく。そこに宿るのはまさしく使命感だ。

朝日新聞社は、この他にも多数の社史を発行してきた。明治42年(1909)の手書き(!)の「朝日新聞社沿革」に始まり、節目ごとに社史を発行している。中でもこの社史編纂は、新聞創刊100周年の記念事業となる予定で、それゆえに編修委員会には局長クラスの精鋭が集められた。諸般の事情で発行は時代が平成に変わった翌年、1990年から1995年までとなった。編修委員会が設置されてから24年後のことであった。



社内の社史編纂室にある本棚の一角。ここでは朝日新聞社の堂々たる歴代社史が大切に収められている。

そもそも「社史」とは

「社史」は会社の歴史を記した資料のことですが、村橋勝子著「社史の研究」では、「企業が自社の歴史を、社内資料に基づいて、会社自身の責任において刊行したもの」を社史と捉えています。発行に関しては、社史編纂室など社内専門部署を立ち上げたもの、ジャーナリストや研究者が執筆したものがあり、また形態も多巻ものや映像資料などさまざまです。

非売品がほとんどですが、一部市販されているものもあります。節目の年に刊行される記念品と思われがちですが、創業期からの経営方針や企業理念、社員や関係者から当時の情報を集めて記録した本文、業界の移り変わりを伝える写真や年表など、産業史資料として役立つ様々な要素を持っています。

社史担当のお仕事。

流通していない社史を収集するために、発行元へ寄贈をお願いするのは社史担当の大事な仕事の一つです。日頃から注意して新聞・テレビ・インターネットなどいろいろな媒体から「○○が創立百周年を迎えました」などの企業情報を入手し、社史が作られているかや、国立国会図書館など他の図書館

が受入した社史情報の確認を行い、それを元に寄贈依頼をします。

特に大阪府内に本社を構える企業の社史は、地域資料としての側面もあるため、収集に力を入れています。中には発行された社史を直接お送りいただく企業もあります。寄贈いただいた資料は、同じ業種ごとに比較できるような業種別に色シールを貼って、社史コーナーに配架します。

当館の所蔵資料として永久保存し、ビジネスの情報を求めるたくさんの方に利用されていることもあり、寄贈に協力して下さる企業は多いです。そのおかげで、現在では社史のコレクションは5000冊以上に。社史コーナーにはそのうち約3000冊を並べ、開館中いつでも自由に手に取れるようになっています。

こんな時に役に立ち。

社史の使われ方はさまざまです。新しく社史編集担当となった方が比較や記述の研究のために利用されるほか、社史には事業所の変遷や主要製品一覽、業績の推移なども掲載されるので、取引先企業の調査や就職活動の企業研究に使う方もいます。鉄道や自動車業界の社史は写真が豊富なので、趣味としての利用も多いようです。

社史はレファレンス(調査相談)で役立つことも多い資料です。例えば、ある人物を調べている方へ、その人物が理事を務めた会社の社史をご紹介します。また、社史の年表には業界の動きも合わせて書かれているので、業界史の調査に社史をご案内することがあります。

「みんなで選ぶ 社史グランプリ」

社史をもっと利用してもらおうと開催した「みんなで選ぶ社史グランプリ」(5月11日〜6月23日)では、5部門・計27の社史を展示し、部門ごとに気に入った1冊に感想を添えて投票いただきました。身近な企業も初めて知った企業も、「社史には会社の歴史がわかりやすく書かれていて興味深い」という感想をいくつもいただきました。ちなみに、総投票数(共同開催の神奈川県立川崎図書館との合計数)が一番多かった社史は「アサヒビールの120年」です。

また関連講演会も計3回実施。社史制作に携わられた方ならではの具体的なお話し(例えばスケジュール調整や資料収集、発刊への熱い思いなど)を聞くことができて、現在社史制作を担当されている方などに好評でした。

大阪府立中之島図書館 新人社史担当者のつぶやき

6月号でもご紹介したが、大阪府立中之島図書館は、オフィス街の図書館らしく社史の収集に力を入れている。集めるだけでなく利用促進にも熱心で、図書館配信のメルマガには連載コラムも。その担当者に、社史を楽しむヒントを教えてもらった。



大阪府立中之島図書館
ビジネス支援課 社史担当
安達明子さん

ダイビル 『ダイビル七十五年史』



社史トーク!

社史はどんな風にして作られるのか? どんな思いが込められるのか?
社史はどんな風に携わった方々にお集まりいただき、社史づくりのやりがいや語り合っていたらどう。
その苦勞ややりがいを語り合っていたらどう。
取材・文/大道力(本誌)

社史は「当然、作るもの」。

「まずは社史を作ろうと思われたまきっかけから教えてください。」

三宅 やはり2008年に創業2000年を迎えたことですね。2000周年の記念行事の中の一つとして、社史を作るのも当然のことのように挙がっていました。実は150周年の時に社史を作ろうという動きがあったようで、



その骨子を先輩がまとめておられて、資料がかなり残っていたんです。ですから、過去にそういう動きがあったことをここで実現する意味もありました。樋田 私共の場合は、新朝日ビルとフェスティバルホールを新しく建て替えることが決まったのがきっかけでした。建物は建て替わるけれど、50年の歴史を本として残そうということになったわけです。2008年春のことですね。同時に、5年後の2013年の春には新しいホールができ、再開することも決まっていましたから、公演スポンサーやお客様を再度集めないといけない。その際に、「昔のホールはこうだったんです」と伝えられる一種の営業ツールとしても使えると思ったんです。徳山 きっかけはいろいろありますよね。社長が代替わりした時や、その会社のメインの製品が発売されてから何十周年を迎える時、社名変更をきっかけにする時もありますし、「昔のこと

を知っている人がいるうちに」というのもありました。ただ、やはり会社の設立から何年というタイミングで発行する場合はほとんどです。三宅さんがおっしゃったように、「社史は作るものだ」という意識があるんですね。

「集める」苦勞。

「社史づくりはどのように進められていったのでしょうか?」

三宅 なにせ2000年ですから、その歴史をぜんぶ載せようと思えば、社史

歴史があるといふことは、その時代時代に常に社会に役立っていたといふことでしょね。(三宅)



しっかりした資料収集に基づき、塩野香料が「先駆け」となったトピックを巧みに抽出した内容となっている。

を3冊作っても入るかどうか(笑)。とにかくまずは2000年の間に何があったのかという年史を作らないと、どう進めていけばいいのかわからない。いろいろな記録を探したり、OBの方に「覚えがあることは教えてください」と聞きに行ったり、社員にも同じように投げかけたり。それで2000年分のすべてとは言いませんが、年史を作り上げました。

使うかどうかは別にして、ひとまず集めようと。その骨子を作るところが、一番時間がかかったんじゃないかな。樋田 フェスティバルホールの閉館が決まった時点で、資料のデジタルアーカイブ化は始めていました。本には、50年間に行われた全公演を一覧表にして掲載しています。紙の資料をPCに打ち込む作業はやはり大変でした。いずれにしても、作ろうと思った時点で、1年後の2009年春には出そ

業2000年になりそうや」という情報を仕入れるわけですよ。そうすると、何かの縁をたどって電話をかけたたり、DMをしたりします。その時に、社史を作ろうと考えておられれば、「なんかわかったん?」とおっしゃる場合もありますし、あるいは「考えてみてもええなあ」「まだだいたい先やで」といった反応もあります。そうやって少しずつ接触を持つようにして話し合っていく。「うちの会社ってこうやねん」と言われたら、「それならこんなものはどうですか?」「この会社はこんな社史を作っておられますよ」と情報を出していくことで、お客さんの方もだんだんイメージが湧いてくるんですよ。

「こだわった部分はどこだったところでしょうか?」
三宅 我々のビジネスは、化粧品業界や食品業界にお納めするのが仕事であって、一般の方に直接商品を販売しているわけはありません。言わば黒子ですよ。だからといって、「香料って何?」「こんなものにまで使われているの?」といったことを社史で解きほぐしてもあまり意味がない。ですから、とにかく読みやすくしようと心がけました。ただ、2000年続いてきた会社の中でどういう動きがあったのかを読むことによって、日本の産業の趨勢が

50年史を作ったあためて思ったのは、フェスティバルホールの評価が本当に高いということ。(樋田)

うとは決めていたんです。というのも、2008年の暮れでホールが完全閉館し、翌年の春には取り壊し工事も始まる。それまでには作っておきたかったんです。

同業他社の社史。

「社史の製作をサポートする立場の徳山さんは、どのように関わっているのでしょうか?」

徳山 最初は「あの会社が創



樋田 競合他社の社史というのは気になりますよね。我々が50年史を作る時には、東京のサントリーホールの記事を参考にしました。とても充実した内容なのを見て、「これには絶対に負けないようにしよう」と。そのおかげで「世界の著名なアーティストからメッセージを集めよう」といった目標が立ったわけですよ。

分かるものにはしたかった。どんなものがこの時代に流行ったのか、「ラムネしか飲めない時代もあったんだな」とか、そういうことに気づいてもらえれば良いかなと思っていました。

樋田 うちの場合、記録性と同時に、豪華な雰囲気こだわりました。ホールを舞台に50回を重ねた大阪国際フェスティバルに出演していただいた世界各地の一流アーティストに依頼した、

フェスティバルホールで披露されてきた響きを思い起こさせるような、貴重な資料を惜しみなく掲載した一冊だ。

◎今月の授業②

【古地図】

近代化する街を
地図から追う

2012年9月講座

「古地図で読み解く大阪の歴史(近代編)①」

講師/本渡 章(作家)

大好評シリーズいよいよ第4弾。
明治維新を経て、近代化していく都市。
地図にも現れる変化にも注目。

大阪の古地図を眺めながら、歴史を読み解いていく大好評の講座。江戸や京都のものとも比較することで、多彩な古地図の世界が明らかになっていく。第4回目となる今回は、いよいよ近代編へ。明治維新と共に地図にもやはり変化が見られる。木版刷りが機械印刷に変わり、測量技術も向上して、江戸時代までのものに比べて精密度も上がっていく。今回、

教材として使用するのは「帝国大阪細見図」。明治15年(1882)に発行されたもので、当時の市街が詳しく描き込まれている。東西南北の4区が色分けされており、近代的な都市が整備されていく様子もわかる。また、地図の外側をぐるりと囲むようにして、神社仏閣や駅など新旧の大阪名所が絵入りで描かれている。このあたり

◎今回の教材
「帝国大阪細見図」
明治15年、大阪の版元が出版したもの。カラー・49cm×71cm。大阪の中心部が詳しく精密に描かれている様子は近代的だが、地図の周囲に四天王寺や住吉大社といった神社仏閣、心齋橋や四ツ橋などの橋が描かれるあたりは、江戸時代の名所図会の名残が。

はまだ江戸時代の「名所図会」のような要素が残っていると言えるだろう。1枚の地図の中に近世的なものと近代的なものが同時に描かれており、過渡期ならではのナンデモアリの面白さがある。シリーズも後半へ突入。江戸時代の地図からどのように変わるか、注目してほしい。

本渡 章
「大阪古地図むかし案内」『続・大阪古地図むかし案内』(共に創元社)などのシリーズでおなじみの大阪古地図のエキスパート。歴史的事実だけでなく、作者の思いや物語を古地図から読み解こうとする語り口が新鮮。



「フェスティバルホールへのメッセージ」が届いた時は、「やったー」という感じがすよね。英語で返ってくるものが多かったんですけど、中にはドイツ語のものもあって、ドイツ語でできる高校時代のクラスメイトに送って翻訳してもらったり。ほとんど手作りだったので、そんな苦労もありました。

過去と未来をつなぐもの。

——社史を出したことで、新たな発見などはありましたか？

三宅 新しい発見はそうないんですが、再確認と言えはいいのでしょうか。自慢話のようになりますが、うちの会社は「初めて」が多いんです。国産のエッセンスを初めて作ったのもそうですし、昭和8年(1933)に竣工した当時の大阪工場は、香料専門の工場としては東洋一の規模でした。そういうことは分かっていたんですが、なぜ国産

おまけコラム

社史あれこれ。

数々の企業の社史を知る徳山さんが教えてくれた、社史にまつわる話。

【社史の効用】

●部署ごとに月1回集合して社史の読書会をし、感想などを話し合っている。また事例分析もしている。

●慰安旅行の途中で社史をネタにしたクイズ大会をした。社史編集委員長は無事にトップ成績となり、面目を施した。

●社史発刊の前と後とで会社が変わった。事業の意味や今後のあるべき姿などを多くの社員が語るようになった。

【社史の見方】

●社長挨拶は建前を、編集委員によるあとがきには本音が書かれていることが多い。

●どんな会社も、草創期は一度や二度はピンチがある。あからさまには書かなくても倒産寸前をおおわせた記述も。行間を読むと想像が広がる。

●何回も社史を出すと、事柄の評価が変わる例がある。企業を再建した中興の祖が、その当時の社史においては英雄だったが、10年後には「強引過ぎて皆が萎縮した」だったり…。

日本の企業は
仕事仲間を大切に
社史はその仲間が共有する場を
確認するものでもある。(徳山)

のエッセンスを作らないといけなかったのか、いろいろな事実というものを肉付けしていくと感じ方が変わってくるんです。うちが初めてであることはなんとなく知っていたけれど、事実はどうですと社史に書いてあげること、社員が自分の会社に誇りを持てる。明日の糧にできるわけです。

徳山 私が関わった中で、電子部品の部材を造るメーカーがあるんです。今や世界シェア7割、国内なら9割という世界トップの企業です。でも、70年の歴史をふり返ってみると、創業の頃

は今すぐ倒産してもおかしくない時もあった。仕入れ先に頭を下げてやっとな材料を売ってもらったとか、不良品と言われて全数作り直したとか。そんな時に、あるリーダーが「世界一になるんだ」と打ち上げて、社員は半信半疑ながら、コツコツ努力を続けるうちに本当に世界一になったんです。

今働いている方々にとっては入社した時から世界一だから、それが当たり前。だけどそのプロセスを見ると、先輩たちがものすごく苦労してきた物語が詰まっているわけです。

植田 過去のものを未来へつなげるという意味では、フェスティバルホールが素晴らしい音響だったことを後世に伝えるために、50年史の最後にDVDを付けたんです。最高水準の録音技術を持つグループに、大阪フィルハーモニー交響楽団のホールでの演奏を録音してもらったんです。ホールをつくり、大阪国際フェスティバルを始めた弊社の社史家の功績を讃えた故吉田秀和氏の随筆も再掲しました。その期待に負けないだけのホールと、このホールを擁する39階建ての新ビルが今、完成間近になっています。

三宅 企業というのは、社会に役に立つ、人に豊かな気持ちになってもらえるから続けられる。そうやって必要とされてきたから、こういう本も作れるわけですすよね。そういうことに気づかせてくれたのも、社史のおかげかもしれませんね。

募集要項	「古地図で読み解く大阪の歴史(近代編)①」	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。
	日時/9月19日(木) 7:00PM~8:30PM(開場6:30PM~)	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学9月講座」受付係 FAX.06-4799-1341
	会場/大阪市中央公会堂 小集会室	※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。
	受講料/2,500円(教材費込み)	
	定員/100名	
	主催/ナカノシマ大学事務局	
	協力/大阪21世紀協会	

次回は近代編②
10月下旬に開催!

ナカノシマ大学の最新情報は
<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ☎06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)



レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、京阪電車中之島線にわ橋駅地下1階の「アートエリアB1」。8月のラインアップはこんな感じ。

2	木	7:00PM~ 9:00PM	シリーズ:科学技術イノベーション「環境イノベーション」定員:50名程度 シリーズ第3回は、立命館大学の玄場公規さんに、近年注目されている「環境イノベーション」のコンセプトについて伺います。
3	金	7:00PM~ 9:00PM	オルタナティブカフェ「建築と自治を考えてみる」定員:30名程度 公共空間に「自主的」に建てた建造物と、それを巡る自治のあり方について、事例を挙げて皆さんとお話します。
10	金	7:00PM~ 9:00PM	中之島哲学コレージュ/哲学セミナー「ことばときこえて?—言語聴覚士の世界」定員:50名程度 言語聴覚士は、「ことば」と「きこえ」に問題を持つ方の支援に携わる仕事です。身体で感じつつ、ともに考えてみませんか?
19	日	2:00PM~ 3:30PM	中之島哲学コレージュ/哲学カフェ「どうしておぼけはこわいのかな?」定員:30名程度 わたし、こどもの時おぼけがこわかった。いまだってこわい。どうしてこわいのかな。いっしょに考えましょう。
22	水	7:00PM~ 9:00PM	プロジェクト・ミーティング「アートから政治を考える2」定員:20名程度 「アートから政治を考える」をテーマにオープンミーティングを行います。アートに真摯に向き合う方々のご参加をお待ちします。
24	金	7:00PM~ 9:00PM	マンガカフェ18「オトナの似顔絵教室」定員:30名程度 有名人から市井の人々まで数多くの顔を描いてきた国際マンガ研究センター研究員が、似顔絵の極意を教えます!
30	木	7:00PM~ 9:00PM	シアターカフェ「演劇で学ぼう!」について 定員:30名程度 小劇場の俳優が小学校や公民館などで子どもたちと行っている演劇ワークショップ学習プログラムを体験していただきます。

会場/アートエリアB1 参加費/全て無料 当日先着順・入退場自由 問い合わせ/[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD) ☎06-6850-6632 [場所などについて]アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



大阪大学21世紀懐徳堂

●Handai-Asahi 中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

9/1	土	1:30PM~ 3:00PM	「古代語の謎を解く」蜂矢真郷(大阪大学名誉教授・中部大学教授) 受講料/1,575円 日本の古代のことばについて、形や意味を変えたりしながら現代でも用いられているものを中心に、国語学の語構成を研究する立場から、その語の成り立ちや由来を考えます。謎解きのようなおもしろさや、ルーツを探るようなおもしろさがあるでしょう。
-----	---	-------------------	---

会場/大阪大学中之島センター インターネット、電話、FAXが、朝日カルチャーセンターの窓口でお申し込みください。 <http://www.asahiculture.com/nakanoshima/index.html> ☎06-6222-5224 FAX.06-6222-5221 問い合わせ/朝日カルチャーセンター(中之島) ☎06-6222-5224

●大阪大学21世紀懐徳堂i-spot講座 大阪大学が大阪市と共同で淀屋橋odona2階「アイスポット」で開催する講座です。

10	金	6:30PM~ 8:00PM	「宇宙の成り立ちをさぐる旅」久野良孝(大阪大学大学院理学研究科・教授) 137億年前、宇宙はビッグバンと呼ばれる火の玉から誕生したと考えられています。そしてビッグバンは、実はミクロな素粒子を調べることによって研究できることが知られています。今回は素粒子を通じて、宇宙の誕生を調べる時間旅行にお連れしましょう。
24	金	6:30PM~ 8:00PM	「庭園と都市—イタリア庭園の歴史から現代日本の都市空間を再考する」桑木野幸司(大阪大学大学院文学研究科・准教授) 古代ローマ以来、大規模な私庭を市民に開放する伝統があり、近世には粋を凝らした珠玉の美苑が各地の都市を美しく飾っていたイタリア庭園の歴史を振り返り、現代日本の都市空間、とりわけ大阪における緑地問題を考え直してみます。

会場/淀屋橋odona2階「アイスポット」 受講料/無料 定員/30名(先着順) 申し込み・問い合わせ/アイスポット ☎&FAX06-4866-6803 i-spot@voice.ocn.ne.jp 講座名・受講者本人のお名前・電話番号を、電話かメール、FAXでお知らせください。定員に余裕がある場合は、当日入場も可能です。

●大阪大学×大阪ガス「アカデミックッキング」 「専門分野の講義」と「料理実習」で学問するココロ、が実践的に身につきます。

9/25	火	6:30PM~ 9:00PM	「水が潤す健康生活」山口進康(大阪大学大学院薬学研究科・准教授) 水は土地によって含有成分が大きく変わり、「硬水」「軟水」に分けられます。日本では「軟水」、ヨーロッパでは「硬水」が多くなり、各地域のライフスタイルや食文化に大きく影響します。今回は「水と健康」に関する話題を紹介し、水の飲み比べをします。料理実習では日本にはない「硬水」を用います。 課題料理=豚バラ肉のスープ煮込み、茹で野菜のサラダ、バターライス、紅茶
------	---	-------------------	--

受講料/2,000円 定員/24名(応募者多数の場合は抽選) 会場/大阪ガスッキングスクール千里 申込受付期間/8月1日(水)~20日(月) web申込受付/8月1日(水)9:00PM~ 電話受付/8月7日(火)11:00AM~(8月14日~19日は電話受付は休み) ※8月21日(火)から順次、郵便またはメールにて当落を通知。申し込み・問い合わせ/大阪ガスッキングスクール千里 ☎06-6871-8561 <http://www.og-cookingschool.com/>

21世紀の懐徳堂プロジェクト 8月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。

◎21世紀の懐徳堂プロジェクトとは… ナカノシマ大学が、(財)大阪21世紀協会、大阪大学、大阪市と連携しながら、大阪の街に「市民が学ぶための場所」を広げていくためのムーブメントです。



大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!!(OCC!!)では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。

※大阪カルチャークラスター!!(OCC!!)では、参加店舗を募集中です。お問い合わせはsingles@do.ai(common café)まで。

1	水	9:00AM~ 7:00PM	「中之島の水辺で水上さんぽ」奥谷 崇(水辺ガイド) 参加費:3,000円(レンタル一式+保険+協力金) ☆毎日開催☆年中楽しめるパドルボード/バランス感覚が身に付きエクササイズにもオススメ!	会場 D
4	土	1部 1:00PM~ 2:00PM 2部 4:00PM~ 5:00PM	「オリジナル手織り素材でリボンブローチを作ろう!」booworks/渡邊航一郎(手織り作家) 参加費:1,575円(材料費込み) 胸元やかばんに付けられる小ぶりのリボンブローチ。生地や糸選びも楽しい時間です。	会場 K
5・8	日 水	5日 10:00AM~ 2:00PM 8日 7:00PM~ 9:30PM	「まーさまーラの食卓より〜『じゃあじゃあ麺と豆乳チャイプリン』」中東ゆうこ(ポーポー屋) 参加料:3,800円 沖縄そばに甘辛肉味噌をのせたもの。応用が利くので夏に大活躍!他の麺で代用可。美味しい豆乳プリンの秘訣も〜♪	会場 L
5	日	1:00PM~ 5:00PM	「特製ダンボール織り機で私だけのポーチ作り!」booworks/渡邊航一郎(手織り作家) 参加費:3,675円(材料費込、織り機付き) 何度も使える織り機なので、ご自宅でも気軽に手織りが楽しめます。この機会に始めてみませんか。	会場 K
9・18・23	木 土	2:00PM~ 4:00PM	「アトリコットのニットカフェ」atricot(ニットアーティスト) ※ http://atricot.jp/ にて要予約 レッスン代:2,000円(ワンドリンク付き・材料費別途) 各自好きなものがつくられるニットカフェです。	会場 E
11	土	2:00PM~ 4:00PM	「工作&アート教室Coppa!! -木っ端で船を作ろう!」ムラバヤシケンジ(工作教室講師/アーティスト) 料金:1,800円 色々な形の木っ端を組み合わせて船を作って遊びましょう。	会場 C
18	土	12:00PM~ 2:00PM	「夏に美味しい自然派ワイン&ナチュラルワンプレートランチ〜♪」坂東武子(ばんどう酒店) 料金:3,800円(自然派ワイン5種類〜+ワンプレートランチ) ワインのレクチャーとテイスティング&オキナワンプレートランチ〜♪	会場 L
18	土	1:30PM~ 4:00PM	「コミカレOSAKA昼版!WLBの時間術で仕事をもっと早く終えちゃおう!」積本千里 受講料:2,500円 申込先: http://kokucheese.com/event/index/44306/ 仕事効率化&生産性を上げるコツを一挙に習得しましょう!	会場 E
24	金	7:00PM~ 9:00PM	「Midosuji Talkin' About vol.1『The Art Scene of Osaka』」参加無料 大阪の展覧会・アートイベント情報を紹介するペーパー編集者と共に、大阪のアートシーンについて英語で語り合います。	会場 H
26	日	10:00AM~ 11:30AM	「カフェで一緒に夏の歌を歌いましょう」西影純枝(ソプラノ) 受講料:2,000円(ケーキ、コーヒー付き) ヴォイストレーニングを受けて、「われは海の子」、「海」、「かめめの水兵さん」などを気持ちの良い声で歌いましょう。	会場 J
26・28	日 火	26日 10:00AM~ 10:00AM~ 28日 7:00PM~	「夏を乗り切るさわやかイタリアンでおもてなし」藤本佳子(Marble-Cooking主宰) レッスン代:4,200円(材料費、テキスト込み) 夏野菜をたっぷり使った簡単に豪華に見えるイタリア料理で、おもてなしを楽しみましょう。	会場 B
27	月	7:30PM~ 9:00PM	「落語講座〜入口遊びで出口は文化!」桂蝶六(落語家) 受講料:2,000円(テキスト付き) 初心者のための落語講座。発声や心意気をプロに学びます。日常の話方にも役立ちます。	会場 F
29	水	7:30PM~ 9:30PM	「石原正一のヨミすぎ!〜古今東西名作朗読会〜」石原正一(役者・演出家) 受講料:1,500円 小説漫画戯曲を参加者全員で声に出して読む夕べ。今月は松尾スズキ「ふくすけ」を読みます。	会場 A
29	水	7:00PM~	「聴いて読む&洋書絵本を読む」山崎一郎(翻訳家) 参加費:1,500円(お茶付き) 今回は、グリム童話を読む予定です。	会場 G
30	木	7:00PM~ 9:00PM	「御堂筋Talkin' About vol.19『残すべき大阪遺産とは?』」話題提供:磯上慶子 参加無料 市民レベルの目線から、歴史的建造物や有形無形の文化遺産などの「大阪遺産」の維持、継承について話し合います。	会場 I

A common café ☎06-6371-1800

B Marble-Cooking ☎06-6949-8804

C morrison(studio) ☎080-3113-4816

D 若松の浜 ※お問合せ:アクアスタジオ ☎06-6125-0550

E ULTRA 2nd COFFEE AND DINER ☎06-6949-8804

F フレイムハウス ☎06-6226-0107

G 貸本喫茶ちようちよぼっこ

H フラムテラス

I 愛日会館 ☎06-6264-4100

J カフェ アンドール 本町店 ☎06-6243-0584

K タビエスタイル ☎06-4963-7450

L ポーポー屋 ☎06-6531-7827

http://www.osakagas.co.jp/flamme_t/

1 997年の阪神・淡路大震災の時、神戸新聞記者だった西岡研介さんと松本創さんは、東日本大震災を目の当たりにし、かつて追いかけた震災と重ね合わせつつ、被災地取材を始めることになった。今回のナカノシマ大学は、この取材記録を収めた『ふたつの震災』出版に寄せ、大阪から遠く離れた被災地を身近に感じる重要な機会となった。

「大阪や神戸の方にこそ、僕たちがわかったことを共有してもらいたい」と話す西岡さん。東北での取材に至る経緯を交えた自己紹介の中でも、笑いを誘うかけ合いから、元同僚である松本さんとの名コンビぶりが垣間見えた。また、月刊島民にも何度かご登場していただいている経済のスペシャリスト・齊藤成人さんも「サポーター」として加わった。

松本さんはまず、10代を東北で過ごした経験から、「関西から見た東北は、

物理的にも感覚的にも“遠い、のでは」と指摘。すると齊藤さんが、「関西の人が使ったお金がどこへゆくのかを分析すると、例えば関西で1,000円の商品を買っても、東北には16円しか落ちない。これは他の地域に比べて圧倒的に低い金額です」とデータで補強。また、「東北への観光客を100人とすると、関西人はそのうち3人しかいない」など、関係の希薄さが数字によって明らかになった。

続いて、西岡さんと松本さんの東北取材体験談へ。昨年4月から、2人は青森県八戸市から福島県いわき市まで、直線距離にして500kmを手分けして取材。松本さんはその旅で歓迎を受けた思い出を語り、西岡さんも人の出会いから生まれた東北との縁について、取材体験を振り返った。「東北との関わり方がわからない人は、とりあえず行ってみてください。そして人と知り合って友達になってくだ



西岡さんと松本さんの語りに合わせて、わかりやすいように、齊藤さんがスクリーンへグラフや地図を提示。

さい」と西岡さんの言葉に熱がこもる。顔の見えない漠然とした支援ではなく、築いた人間関係を裏切らないために何かをすれば、それも立派に支援として成り立つ。2人を通して聞こえてきた「まず見に来てほしい」という被災地の声に、受講生たちも熱心に耳を傾けていた。

ぜひとも東北観光を、という2人の話は盛り上がり、自ら“飲み屋トーク”と称する東北の旨いもんに。岩手県宮古市で獲れるドンコという魚や、宮城県石巻市の明太子といった隠れ名物を紹介してくれた。齊藤さんは冒頭での経済効果事情につなげ、関西の物産展などで東北の産品を購入しても代金のほとんどは家賃や輸送費に消えてしまい、実は東北には届かないと種明かし。「一番お金が落ちるのは、現地に行って買い物したり、食べたり飲んだりすることです」とアシストし、東北と関西の交流を呼びかけた。また、散らばるガラスを田畑から取り除いたり、瓦礫を分別する人手がまだまだ必要な現状から、ボランティアを兼ねた旅行を勧める提案も。

講座終了後には『ふたつの震災』ミニサイン会も実施。講師陣へ興味津々といった風で質問を投げかける受講生たちの姿があった。



「大事なことはこれからのこと。僕たちも取材で終わらせる気は毛頭ない。震災を風化させてしまわないよう、伝えていきます」と松本さんは語った。

6月20日(水) ナカノシマ大学6月講座

「大阪から見る、東日本大震災」

②愛日会館

講師／西岡研介(フリーライター・元「噂の真相」デスク)

松本 創(フリーライター・月刊島民プレス)

ゲスト／齊藤成人(日本政策投資銀行関西支店)

当日は台風が近畿地方に接近しており、開催が危ぶまれた。悪天候の中、多くの人たちが足を運んでくださったことに講師の3人もいたく感動。



6月19日(火) ナカノシマ大学6月講座

「大阪で今、何が起きているのか？」

②中央電気倶楽部

講師／湯浅 誠(反貧困ネットワーク事務局長・元内閣府参与)

平川克美(リナックスカフェ代表取締役)

中島岳志(北海道大学大学院准教授・政治学者)

インターネットで声と語りのダウンロードサービスを展開するラジオデイズとのコラボで開催された緊急特別講座。湯浅誠さん、平川克美さん、中島岳志さんという、まさに今この人の話を聞きたいと思う豪華なメンバーによる鼎談とあって、悪天候にもかかわらず会場は満員となった。

講座は中島さんが進行役のような形で展開。大阪での開催を意識して、まずは湯浅さんの内閣府参与時代の話から始まった。2009年、民主党への政権交代直後に当時の副総理であった菅直人に請われて、貧困問題を解消するための政策づくりに関わった経験をふり返った湯浅さん。そこから、「菅直人ってどうですか？」という平川さんの問いかけによって、話題は民主党政権への評価へと移っていく。ころころと首相や政策が変わる政権に対して強い危機感を明かした平川さんに

対して、中島さんも「政権交代はしたものの、民主党は統合する理念がよくわからないままマニフェストを発信している」と指摘。そのことが、「政権交代前に予測していたとおり、結局、誰がやっても政治は良くならないというシニシズムの蔓延を導いている」と話す。

生活保護をめぐる最近の問題や民主主義など、いつものナカノシマ大学とはちょっと異なるシリアスなテーマ



会場の中央電気倶楽部には、平松邦夫前大阪市長も来場(左)。鼎談終了後に感想を寄せてくださった。

で講座は続いていった。「現在の民主主義は、印籠を持っている誰かがすべてを解決してくれるだろうという“水戸黄門民主主義”。でも、印籠を持った人を探し続けても見つからない。そういう“おまかせ民主主義。からは脱して、意見をすり合わせながら少しずつ積み上げていくしかない」と湯浅さん。

また、平川さんは現在生じている問題は、戦後、長い時間をかけて日本人自身が選び取ってきたことの“結果、であると主張。「引き受けて、当事者になる覚悟が必要だ」と、人間の身体性の重要性を繰り返し強調した。

終盤は、中島さんが“ジェットコースター化、と呼ぶ、乱高下する世論について。その時々気分によって変動する民意に対して、危機感を募らせた。湯浅さんは、「政治や社会問題を考えるとと言っても、夜遅くまで仕事をして11時に家に帰って、次の日は朝6時に出なきゃいけないという生活では、そういうことを考える時間的・空間的な余裕がない」と、極めて現実的な観点からその困難さを指摘した。

そして最後に意見を求められた平川さんの感想は、「僕はもう坂口安吾なんですよ。つまり、現代人にはまだまだ絶望が足りず、それゆえに今起こっている問題に気がついていないという心象を語ったもの。「今は数多くのデマゴーグが流れているけれど、本当に言葉の力を持った人が出てきてくれれば」。重い言葉の詰まった90分となった。

あの人気対談シリーズが1冊に!

「大阪の神さん仏さん」 釈 徹宗 高島幸次

いよいよ
8月10日(金)
発売!



身内びいきでコミュニケーション上手、
合理主義で新しいもん好き。大阪の人々の精神性は、
「神さん仏さん」との付き合いから生まれてきた。
住吉大社、四天王寺、生國魂神社、大阪天満宮…
土地に根差した神社やお寺に目を向けることから、
大阪という都市や、そこに生きる
人々の特性を読み解いていく。
(おまけに神道や仏教のこともよくわかる!)

昨年、ナカノシマ大学で5回にわたって開催された、釈徹宗先生と高島幸次先生によるナカノシマ大学の人気対談講座「大阪の神さん、仏さん」が、いよいよ1冊になって発売。

講座の内容をベースに加筆し、読みやすさがアップ。さらに対談を終えてのまとめの文章も加わり、面白だけでなく、読み応えもしっかり。神社やお寺の特徴から大阪という都市の特性を考察したり、キリスト教などと比較することから日本や大阪の信仰のあり方を位置づけたり、お二人の視点から語られています。

定価1500円 お問い合わせ/株式会社140B ☎06-4799-1340

Pride of OSAKA

-大阪が誇れるホテルであり続けること-

リーガロイヤルホテル文化教室 エコールドロイヤル

【エコールドロイヤル】はリーガロイヤルホテルの会員制の文化教室で、1975年に、「他にないレベルの高さを特色にした教室を」と、選りすぐりの講師陣を招き開講しました。現在では人間国宝も講師に名を連ね、80種以上の講座があり、1ヵ月に約1000名の方々が受講されています。年に一回、作品展も開催し力作を発表していただきます。

年会費: ¥5,250(税込み)【1年間有効】

※受講料は講座により異なります。

今がチャンス!
入会金無料
キャンペーン
8月末まで

今を知る、魅力ある講演が聴きたい放題 リーガクラブの学びの時間

【リーガクラブ】はリーガロイヤルホテルの中高年(55歳以上)を対象とする会員制のクラブです。毎月4回、医療、健康をはじめ、人生、文化、芸術、政治経済、趣味などの幅広い分野で活躍する講師による講演会やコンサートなどを、いくつでも受講していただけます。これからの人生をより豊かに健康で過ごせる「ためになる話」を聞きに来ませんか?

●今後の講演予定

トーク&コンサート
8/6(月) 「雅やかな宴〜美しき官能の音楽〜」
講師/森下奈美(ピアニスト) 福嶋 勲(バトーン)

講演会
8/31(金) 「吉田五十八:日本の伝統と近代建築」
講師/米田 明(京都工芸繊維大学 准教授)

8/3(金) 講演会「没後100年 石川啄木の世界」
8/20(月) 講演会「今こそ知りたい平家物語」

コンサート
9/10(月) 「モンゴルの風〜響き〜」
講師/春蘭(馬頭琴奏者)

健康講座「唾液って素晴らしい
〜健康・長寿を支える口腔ケア」
講師/阪井丘芳(大阪大学大学院歯学研究所教授)

9/4(火) 朗読コンサート「名作から生きる力を」
9/28(金) 講演「せつなくきらめく芸人の生き方」

年会費: 個人会員¥31,500、夫婦会員¥52,500(いずれも税込み)
【1年間有効】

お問い合わせ: リーガクラブ事務局

☎06-6441-1727(直通)
(10:00a.m.~5:00p.m. 日祝休)



リーガロイヤルホテル
エコールドロイヤル
大阪市北区中之島5-3-68
☎06-6441-2938(直通)
(9:30a.m.~5:00p.m. 日祝休)
☎06-6448-1121(ホテル代表)

ホテルをアトリエ感覚で使う優雅なサロン

エコールドロイヤルの趣味の時間

「いつかはやってみたい」と前から興味を持っていたことも、いざという結構おっくうになりがちです。
「やってみようかな」と思い立ったが吉日です。中之島のリーガロイヤルホテルの文化教室【エコールドロイヤル】では一流の講師の先生方にマンツーマン感覚で教えてもらえる講座がたくさんそろっています。
まるでホテルにご自身のアトリエをもっているかのような寛いだ時間の中、創造する喜びが味わえます。
ほとんどの教室が見学や体験ができますので、まずは気軽にちょっと覗いてみませんか?



「何か楽器をはじめたい」という方ならウクレレはいかがでしょうか? 半年も練習すれば1曲弾き語りができるようになります。また、人生の思い出とも深く関わりがある「歌」を、あらためて習ってみませんか? シャンソンやジャズ・ポップスなど幅広いジャンルからお選びいただけます。

一定の作法に基づき、香木をたき四季・和歌・行事などのテーマを表現し、香りで表現された古典文学の世界を鑑賞する香道。教室では香道のほか、書道、華道、ホテル内のお茶室での茶道など「芸道を極める。講座が日常の生活に潤いをもたらす、和の心にふれてみませんか?」

ホテル周辺の中之島は四季折々に美しい景色を感じることが出来ます。そんな、風景を思い通りに描いてみませんか? 日本画、水彩画、油絵のほか、ガラスを彩るスタンドグラスやマイセンなどのヨーロッパ名窯と同じ技法を用いる欧風磁器上絵付けなど、和洋さまざまなラインアップがそろいます。

初めて土に触れるという方でも、陶芸家の講師陣による丁寧な指導の下、土もみから教室内の窯を使った焼成までを通し、基礎をしっかりと修得し、その後は自由な課題に取り組み、自分だけの器を焼き上げていきます。柔らかな土の感触は幼い頃の粘土遊びを思い出し、心と体をほっこりと癒やしてくれます。



●ウクレレ・ハワイアン/シャンソン/ジャズ・ポップス 他



●香道/華道/茶道/書道 他



●日本画/俳画/洋画/水彩画/ガッシュ画/スタンドグラス/欧風磁器上絵付け 他



●陶芸

エコールドロイヤルの文化講演「この人に聞く」 著名人・文化人をお招きしての講演会を開催しています。

8/9(木)「人生100年」安藤忠雄(建築家) 9/20(木)「現代に生かす茶のこころ」千宗室(裏千家第16代家元)

※曜日、時間は各講座によって異なります。その他、講演など詳しくはお問い合わせください。

水辺の「涼」の楽しみ方 ベスト3。

第1位 脱いでみる



私たちの船は、広めのウッドデッキに大きなクッションを並べ、床座のスタイルを基本にしている。水面上で過ごすだけ近くで過ごしてほしい、というデザインだ。そんな船上では、靴を脱ぐのがオススメだ。素足が水面の風を感じたときの快感といったら！

定員が10名ということもあり、船上はいつもリビングのような、くつろいだ風景になることが多い。面白いことに「おじゃまします」と言ってお客さんもお客さんも少なくない。「玄関入って靴脱いで…」という完全におうちの流れが心地良いはず。

船上に限らない。中之島には広々とした芝生やちよつと隠れた場所にあるベンチなど、恥ずかしがらずに素足になれる場所がある。

第2位 住んでみる

1位から飛躍が過ぎるのではないかと、という点にご容赦いただきたい。

僕はこの10年くらいに、寝屋川→道頓堀川→大川と水辺を転々と暮らしている。都心に住むのだったら、もう水辺以外は思いつかない身体になつてしまった。水面の風が入ってくるし、何より視界が開けているので清々しく、それが涼感になる。朝の鏡のような水面の景色、日暮れの高くたなびく雲なんかも抜群に良い。

番外：そもそも水辺は涼しい

ところで、確かに水の上は街なかに比べて涼しいようだ。いろいろな調査があるので一概には言えないが、水辺の気温は街中に比べての2℃ほど低くなるという。体感温度では4〜5℃低くなる、という話もある(10℃違う！という調査もある)。

クルーズの感想で「思ったより涼しかったです」という声は本当に多い。水路が風の通り道になることが大きいようだ。大阪には戦後間もなくまで、あちこちに堀が残っていたというが、いくつか残しておいてくれ



たら、もつと涼しい街だったろうになあと、よく思う。長堀通あたりを「風の道」にするというプランを耳にしたことがあるけれど、いつそ堀にちやうとか、どうですか？ 船で心斎橋の高級店めぐり…なんて。

第3位 シュツとしてみる

漠然とし過ぎていてはいないか、という点は重ねてご容赦いただきたい。

先日仲間同士のパーティーを船上で開かれた方々を見てそう思った。みなさん座る姿が美しく、どことなく涼しげなのだ。こちらまで笑顔になるようなリラックスした雰囲気だったが、そこはかとなく「シュツと」されている。手荷物から拝察するに武道の類をされていらつしやるようだった。ナルホド。

みんなが浴衣で集まって、船上で冷酒を聞き比べる、という企画をしてくれたお客さんもいた。こちらも和服ならではの凛とした感じがあつて、水面に映えていた。

この暑い時期になると、なんだかグニャつとした姿勢になってしまうが、涼しげにしている、というのがいかにも中之島らしいオトナな感じだ。あと、素足になりながら思った。



中野弘弘
なかのひろあき
中之島をはじめ、大阪の水辺をクルーズする小さな遊覧船「御舟かもめ」船長。
<http://www.ofune-camome.net/>

第十二話

中之島フェスティバルタワーへ 最高の建設技術を結集したメガトラス

朝日新聞は、常に時代の先端をゆく建築を中之島に実現してきた。その新しさは、何もデザインに限らない。建設技術もまた然りである。現在工事中の中之島フェスティバルタワーにも、前例のない新しい技術が投入されている。

特筆すべき技術は数多くあるが、代表的なのはメガトラスだろう。2700名を収容するホールの真上に、高さ200mにも届く高層オフィスをとせた特殊な構造。ホールの真ん中に柱を立てることはできないので、オフィス棟の大荷重を斜めの構造体で外壁側へと流すのがメガトラスの役目だ。

「メガ」と名のつく通り、一般的な建築のスケールを超えた巨大な鉄骨の構造体は、工事を担当する竹中工務店に数多くの難題を突きつけた。メガトラスは1つの部材が最大約80トン。まず、この巨大な部材を製作できる鉄骨工場がない。仮



都市美を 伝えて 朝日新聞と 中之島の130年

取材先／高岡伸一

は、現場近くまで運べたとしても、最後に橋を渡ることができない。川に囲まれた中之島は古い橋が多く、通れる荷重に制限があるからだ。

そこで竹中工務店は、部材を分割して製作・運搬することにした。小さくすれば簡単だと思われられるかもしれない

が、分割すれば現場でそれを一つにしなければならぬ。巨大な鉄骨を現場で組み立てるのはまた新たな困難を生む。いくつかのピースにどのように分割するのがベストなのか、現場は設計者と共に

知恵を絞って検討を繰り返した。巨大な鉄骨を一つに組み上げるためには、全国からトップレベルの溶接工が呼び集められた。ロボット溶接の導入も考えたが、最大厚み10センチもある極厚の鉄骨を確実に溶接するには、やはり熟練の職人技が必要だという。

重い鉄骨は2台のタワークレーンで同時に吊り上げた。2人のオペレーターが呼吸を合わせ、鷹の職人が高所でパランスをはかり、現場全体のチームワークで1本1本、慎重に所定の位置へ

運んでいった。「現在の日本における最高の建設技術を投入したビルです」と、現場を担当した竹中工務店の岡橋稔課長は胸を張って語る。そこには最新のエンジニアリングだけでなく、職人の技や、現場のチーム力も含まれている。

岡橋氏が興味深いエピソードを紹介してくれた。まだ地下工事が始まる前の話だ。この敷地に以前建っていた新朝日ビルの工事を担当した、竹中工務店のOBが突然現場を訪ねてきた。そして旧ビルの地下工事がどれほど困難で、自分たちは如何に克服したのかを熱く語っていったという。確かに中之島の朝日建築は、川に挟まれた地盤との闘いの歴史であった。過去の建築は解体されて姿を消し、工事に携わった人々は完成すれば現場から去っていく。しかしその精神は、新しい建築へと確実に継承されていく。



中之島フェスティバルタワー



提供／株式会社朝日ビルディング
<http://www.festivaltower.jp/>

工事中のメガトラス。竣工後も13階のスカイロビーでその巨大さを見ることが出来る。

私が小説を書きたいと思い立ったのは、高校2年の秋だった。それまではサッカーとお笑いが好きな単純な少年だった。

今も忘れないが、1972年10月9日の夜、中間テストの勉強をしようと机に向かっていたとき、突如、長大な小説のシーンが目の前に浮かび上がり、次から次へとパノラマのように展開して、自分で止められなくなった。内容ははっきり覚えていないが、友情と裏切りを巡るドラマで、登場人物たちは深刻かつ情熱的な言動を繰り返して、メロをとりも忘れて、ただただその幻影に圧倒されるばかりだった。

そのまま熱に浮かされたような一夜を過ごし、翌朝、目覚めたときには、私は自分が小説家になることをはっきりと自覚していた。

そんな体験をしたのは、その前にいろいろ偶然が重なったせいだろう。たとえば、高2からはじまった倫理社会の授業。そこではじめて哲学らしきことを学び、担当のH先生が語るデカルトの『方法序説』に、強い衝撃を受けた。

曰く、「夢を見ているとき、我々はたとえ走っていると思っても、実際はベッドの中にいる。だから、今のこの世のすべても、実は夢なのかもしれない。そう考えると、あらゆるものの存在は疑わしくなるが、疑っている自分の存在だけは疑い得ない。なぜなら、それを疑うためには、さらにそれを疑う自分の存在が必要だからだ。すなわち、我思う故に我あり。

教養部の2年間は遊びばかりで虚しく過ぎ、専門課程に上がった3年のとき、これではいけないと一念発起し、心を入れ替えて医学を学ぼうと決意した。4月からはじまった講義はすべて前から2〜3列目で受け、予備校並みにノートをとる、家では予習復習を欠かさなかった。ところが慣れないことをしたせいか、徐々に脳の温度が上昇しはじめ、4月の終わりには臨界状態になった。ゴールデンウィークで少しガス抜きをしたが、連休明けの生化学の講義中、突如、こんなことはしてられない、小説家になるには文芸誌の新人賞を獲らなければならないと、雷に撃たれたように思い立った。私はさっそく次の講義をサボって家に帰り、原稿用紙に向かいはじめた。

以来、講義は出ても最後列、ノートはほぼゼロという状態が、卒業前まで続くことになる。さて、新人賞に応募するといっても、どんな賞があるのかも知らず、取り敢えず本屋に行つて、『小説現代』と『中央公論』を買った。系統がいろいろはなはだしだが、当時の私は、エンターテイメントと純文学のちがいがわかっていなかった。

それでも中身をばらばら読むと、『小説現代』はどうも自分の志向に合わないと感じた。『中央公論』は、新人賞の締め切りが1カ月後だったので、これにしようと決め、それから必死に100枚の作品を書いた。メモしてあった夢の

これを聞いて、私はこれまでの努力の前提が一挙に瓦解するのを感じた。すべてが疑わしいのなら、善も悪も、崇高も卑卑も、誠実も裏切りもない。信じるに足るものはないのだから、いっさいの価値はなく、努力はすべて空しい。私は自分の行動原理にも悩み、考えあぐねた末、「すべての根源は欲望である。禁欲でさえ欲望だ」という欲の一元論にたどりついた。

そんな不安定な状態のとき、友人に勧められて、ドストエフスキーの『罪と罰』を読んだ。主人公ラスコリニコフの苦悩は、自らの論理に翻弄される自分にびたりと重なり、心の奥底に強烈に結びついた。また、陽気な世捨て人を装いながら、凶暴なほどの明晰さで主人公



中之島ふらふら青春記⑨ 久坂部羊 心をこめた 小さな本 前編

話を適當につなぎ合わせ、主人公の魂の遍歴を描くシュールな作品で、タイトルは「ソウル・バースデー」。

夢をテーマにしたのは、ドストエフスキーの次にはまったカフカの影響だった。『罪と罰』はおもしろかったが、そのあとに読んだ『カザンゾフの兄弟』や『貧しき人びと』は私にはむずかしすぎて、ほとんど理解できなかった。それよりもカフカの『変身』『城』『審判』のほうがおもしろく、本質は理解できないものの、その非現実的な描写に強く惹かれた。

作品は締め切りのぎりぎりに投函し、胸をときめかせて発表を待った。はじめての応募だったので、一次・二次選考があるのも知らず、最終候補になれば事前に通知が来ることにも気づかず、ただただ受賞作の発表号を心待ちにしていた。

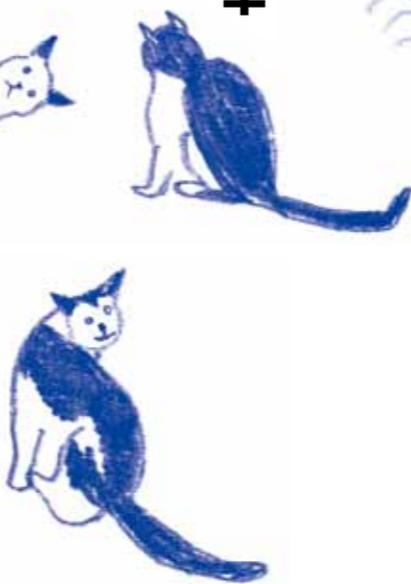
発売の日、私は緊張しながら本屋に行き、目次で受賞結果を確認した。当然、落選。しかし私はへこたれなかった。今回は駆け込みで応募したので仕方がない。次は1年かけて、納得のいく作品を応募すればいい。

闘志を新たに、私はテーマを考え、さまざまなアイデアを練った。しかし、22歳のお気楽学生に私に、小説になるようなテーマがそう簡単に見つかるはずはない。高2の秋の夜に見た幻影は、長大すぎてとても手に負えない。いろいろ考えた末、家に飼っていた猫を主人公にしたドラマを書くことにした。漱石の『我が輩は猫

を追いかける予審判のポルフィリーや、傲岸不遜で虚無と繊細に揺れる悪魔的快樂主義者、スピドリガイロフにも陶酔した。

先の一夜の幻視には、これらの不安と興奮が根深く関わっていたと思う。私にとっては、世界がガラリと様相を変えた刹那だった。

高校3年と予備校の間は、泣く泣く受験勉強に追われたが、大学に入ればこっちのものと思っただけで、創作の時間が取れるようになった。しかし、まったくの徒手空拳で、何をどう書いていいのかわからない。おまけにサッカー、合コン、飲み会、スキー、映画、一人旅と、青春を謳歌するのにも忙しく、ひとりで図書館にこもることもあったが、作品らしいものは一向に仕上がらなかった。



である』のような人間観察ではなく、純然たる猫の世界を描いた猫小説である。原稿は苦勞して書き、見せ場も作り、何度も推敲を重ねて、二度目の応募に挑戦した。このときは候補作になれば連絡があるとわかっていたので、発表の2カ月ほど前から、毎日が緊張の連続だった。今日は電話がかかるか、明日は通知が届くかと、運命の分かれ道に立ったような気分であっていた。

しかし連絡は来ず、受賞作の発表号を見ると、私の作品は一次選考にも通過していなかった。このときはかなり落ち込んだ。賞にかすりもしないということは、そのまま進んでもダメということ、何かほかのやり方を考えなければならなかった。しかし、小説家になるには、いったいどんな方法があるのか。五里霧中の気分でしたとき、私は梅田の紀伊國屋書店の一隅に、思いがけない看板を見つけた。「自費出版コーナー」。本を出したい人のために、紀伊國屋が出版を引き受けてくれるというのだ。これなら道が開けるかもしれない。空想癖の強い私は、自分の小説集を思い浮かべ、早くも半分勝利をつかんだ気になっていた。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』(幻冬舎文庫)でデビュー。現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。「5月から自然死を望む86歳の父を母と子どもも自宅に引き取り、介護しています。家族全員が父に感謝し、別れを覚悟し、死亡診断書の手配までしたのに、また元気になってきました。現実はいい通りになりません。ふらふら青春記は次が最終回。どうぞよろしく」



レゴ®ブロックで作った世界遺産が大集合!

今も昔も世界中で広く愛されているデンマークのおもちゃ、レゴ®ブロック。日本に上陸して50年、懐かしさを感じる人も多いだろう。堂島リバーフォーラムでは、そのブロックで20ヶ国26件の世界遺産を再現した展覧会が開催中。

ピラミッドやモアイ像、コロッセオに厳島神社。色とりどりのレゴ®ブロックで作られた各国の世界遺産が一望できる会場は、まるで地球そのもののよう。大阪にいながらにして世界一周したかのような楽しさ。

また、琵琶湖から大阪湾に繋がる「水辺」をふんわり再現。来場者が白いブロックで作った水辺の生き物たちを展示していく、水都大阪ならではのスペシャルコンテンツも用意されている。この展覧会に寄せられた国内外のアーティストらのアート作品も合わせてのぞきたい。このイベントは、これまで日本各地で開かれてきたチャリティー展覧会でもあり、入場料やグッズ売り上げの一部は日本ユネスコ協会連盟に寄付され、世界遺産保護活動のために役立てられるとのこと。

(江口由夏・本誌)



PIECE of PEACE 「レゴ®」で作った世界遺産展part2

期間/8月26日(日)まで
会場/堂島リバーフォーラム
入場料/大人300円(中・高校生含む)小学生100円
小学生未満無料
問い合わせ/堂島リバーフォーラム ☎06-6341-0115
http://www.dojimariver.com http://www.pofp.jp/
©PIECEofPEACE
LEGO, the LEGO logo and Minifigure are trademarks of the LEGO Group. ©2012 The LEGO Group.

上から
クロックムッシュ
1個399円
黒毛和牛ととろ〜り
チーズのドリアパイ1個
(直径14cm)2100円
牛タンのスモーク
100g(約6枚入り)
1575円



焼きなでパンが100種! リニューアルオープン

リーガロイヤルホテルのメインロビーを入ってすぐの左側、通り過ぎようとする足を止めるパンのいい香り。ホテル(ホテルの1階)フームの牽引役として知られるティークアウトショップ「メリッサ」が、今回10年ぶりのリニューアル。「パンの種類を増やしてや」焼きなでが買いたい」というお客さんのリクエストにより、スナリと並んだパンは総菜系から食パンまで約100種。店内では焼き上がりの時間も告知しているのでアツアツを買うことができる。また、奥の総菜コーナーでは牛タンなどのスモーク製品や

リーガロイヤルホテル
グルメブティック メリッサ
大阪市北区中之島5-3-68
リーガロイヤルホテル 1階メインロビー
☎06-6448-2412(直通)
10:00~20:00(年中無休)



日本センチュリー交響楽団員と学生の夏休みコラボ!

おなじみアートエリアB1(P11)にて月に1度、アートエリアB1ミュージックカフェが開かれていることはご存じだろうか。日本センチュリー交響楽団員の演奏が観賞できるコンサートで、無料で聴ける気軽さとアクセシビリティが人気を呼んでいる。昨年12月から月替わりの企画で来場者を楽しませているイベントだが、8月は夏休みの開催とあって、日本セン

チュリー交響楽団員と同志社香里高校の学生たちのコラボレーションが実現。現役吹奏楽部生が奏でる「ハーモニー」が披露された後は、今回のテーマである「木管楽器」に焦点を当てて演奏のコツを探るプログラム対談や、古くから親しまれてきた童謡の合同演奏が企画されている。観客がステージに上がり、フルートやクラリネットといった木管楽器に実際に触られるコーナー

も設けられているそう。そして、最後には日本センチュリー交響楽団員によるミニ・コンサートも行われる予定。この日限りのタックで広がる音の幅に期待したい。(江口由夏・本誌)



ワークショップはなんと100種類以上。プロの料理人に習うソース作り、劇団員に学ぶ演技のいろは、殺陣教室や工場撮影入門など、自分の知らなかった世界をワークショップで体験できる。各講座の内容や日程、会場など、詳しくは特設サイトにて。すでに予約は始まっているので、「一度はやってみてみたい」ワークショップを見つけたらすぐに問い合わせを。(江口由夏・本誌)

阪大の研究者が子供たちのために送る特別授業!

毎月さまざまな講座を行っている大阪大学(P11)だが、実は小・中学生のための講座も開かれている。例えば、今年8月のラインアップは、産業科学研究所でのガラス細工や金属加工など科学の力を利用した小・中学生対象の「ものづくり」体験。まさに夏休みの自由研究はうってつけ、毎年大好評を博している。その他にも、蛋白質研究所による細胞内での蛋白質の働きに

迫る講座や、理学部教員が登壇する数学の授業といった高校生向け講座もいくつか用意されている。いずれも参加費は無料だが、夏休み中の講座は申し込み締め切りが迫っているの、参加したい人は予約を急いでほしい。

10月には、理系が気になる中高生女子のための科学塾や、最先端の物理を高校生に体験



してもらおうプログラムなどが開催予定。11月の大学祭「まじかね祭」では、開放された各学部や研究所などを回ることも。(江口由夏・本誌)

大阪大学21世紀懐徳堂 中学生・高校生向け講座
会場/大阪大学 豊中キャンパス・吹田キャンパス
今から参加可能な講座日時/
8月6日(月)10:00AM~3:00PM「蛋白研セミナー」※要申込
8月17日(金)10:00AM~12:00PM「現代数学への冒険」
10月13日(土)~[Saturday Afternoon Physics2012]※要申込
10月21日(日)「女子中高生のための関西科学塾」※要申込
問い合わせ/大阪大学21世紀懐徳堂T06-6850-6443
※各講座の概要や会場など、詳しくはhttp://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/

2006年からワークショップ(体験型講座)をフィーチャーしてきた「DOORS」が、今年も大阪市内の各地で開催されている。ワークショップとは、各界のエキスパートの指導の下、実際に作品を作ってみたり体を動かしたりする体験型講座のこと。あまり注目されていなかったワークショップに目を向け、自分自身で作りたいものや、興味のある分野を知りたいという、さまざまなジャンルのワークショップを集めた見本市のような試みだ。

DOORS —100selection—
期間/8月19日(日)まで
会場/芝川ビルモダンテラス
大阪府中央公会堂 クレオ大阪南
大阪市立芸術創造館 旭区民センター
料金/各講座500円(要予約)
※別途材料費のかかる講座有り
予約・問い合わせ/
IWF 実行委員会 事務局
☎06-6955-1066
http://www.iwf.jp

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/テリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店]旭屋書店 梅田地下街店/旭屋書店 堂島地下街店/カペラ書店/紀伊国屋書店 本町店/ジュンク堂書店 大阪本店/ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店/ジュンク堂書店 天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/スタンダードブックストア/天牛塚書店 大江橋店/ブックファースト 梅田店/ブックファースト 淀屋橋店/文芸堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店
- [公共施設・大学関連施設など]アイスポット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立中央図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪フィルハーモニー会館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪リバーサイドキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メック屋町
- [店舗・医院など]アリアスカ マーブルレ/アンドール 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前料理 志津可/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/大西洋服店/OOO(オー) /カセツ/喫茶センター/喫茶SAWA/クラシエ/黒門さかえ/コモンカフェ/サウワ花店 中之島本店/ザ・メロディ/じろう亭/Girond's JR/心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン大阪証券取引所店/タビエスタイル/ティーハウスムジカ/たまわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャー/パストラル/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルニアカフェ/フレイルハウス/ミジロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/ラッキーニャ/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店]伊勢屋書店/大阪書店/紀伊国屋書店 京橋店/なんばミヤタ/福島書店/柳々堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など]大阪市社会福祉研修情報センター/大阪市立図書館 [店舗・医院など]あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパール/大阪市信用金庫 江戸堀支店/御船かもめ/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かぎキッチン/ネイルサロン スワナナ/バルビコ/ホステル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂 フレスト店/Books 呼文堂/水嶋書房 くずはモール店/水嶋書房 くずは駅前店/大阪狭山市立図書館/大阪大学企画部広報・社学連携事務局/大阪大学 21世紀情報堂/大阪大学本部/寝屋川市役所/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりん会
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/大手通りストリートギャラリー 街・発信/納屋工房/タバーン・シン普森/百練/奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 大研究・京阪電車のすべて

中之島線の開業を機に創刊した月刊島民の記念すべき第50号は、京阪電車の大研究。電車・駅・線路などから京阪電車の魅力を徹底紹介。

●『月刊島民』vol.50は2012年9月1日発行です!

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行/月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン/山崎慎太郎
表紙イラスト/奈路道程
印刷/佐川印刷株式会社

島民の老舗企業に 天神さんの「分社」があつた。



樋屋製菓

大坂夏の陣(1615年)後にいったん宝塚へ逃れた坂上家が7年後に天満へ戻って創業したと伝わる。大塩平八郎の乱や大阪空襲で社屋が焼失したが、「奇応丸」の原料や処方箋は一部避難させていたため無事で、創業時からの製法を守り続けている。新たに建立した社殿には、この土地の神である白龍大神と喜龍大神、伏見稲荷の末長大明神の3神が祀られている。天満宮の菅原道真公は社屋内に。

「赤」ちゃん夜泣きで困ったな」とくれば、同じメロディで「かんむし乳吐き弱ったな」と呼応するのが一定年齢以上の大阪人の常識だが、そのCMで歌われる乳幼児薬「樋屋奇応丸」の製造元が、大阪で二、三を争う老舗の島民企業であることを知る人はどれほどいるだろう。しかも、大阪天満宮の「分社」を持つほど由緒正しき会社であることを。

天神祭の船渡御が行き交う大川からすぐ、天満の地にある「樋屋製菓」。元和8年(1622)創業というから今年でなんと390年。現社長が15代目になる。

看板商品の「奇応丸」はそもそも、奈良時代の高僧・鑑真が伝えたともいわれる不老長寿の薬。これが同社の初代・坂上忠兵衛によって、赤ちゃんの心身バランスや体力を整え、夜泣きやかんの虫を抑える漢方の生薬として普及していった、という。

この「坂上忠兵衛」の名跡は現社長の父親に当たる先々代まで世襲されたそうだが、今も変わらず受け継がれて

いるのが、代々の社長が務める大阪天満宮氏子総代の役職。天神さんとの関係はそれほど長く、深い。

社のある場所は天満宮の裏参道に当たります。長年ここで商売させてもらっている縁で、天神祭の御風輦(渡御列で神体を乗せる)を寄進したり、天神さんの梅鉢の紋を商標に使わせていただいたりといったお付き合いが続いてきました。

と、同社取締役の大畑理昇さん。その天満宮の勧めで、創業390年を記念して社屋前に建立されたのが、立派な白木の社殿と鳥居だ。

「二部に金箔を施した緻密な細工の社殿は、天満宮からご紹介いただいた社社大工に作ってもらい、3月22日の鎮座祭には5人の神主さんが来られて、祝詞を上げてもらいました。以来、毎月月初めにはここで社業発展と商売繁盛

を祈る月例祭を行っています」

天満の住宅街に出現した新たな参詣スポット。会社の関係者だけでなく、地域の人も散歩ついでにお参りしていくという。社長の弁によれば「390年ということサンキューの意味もある」という感謝の心は、土地の神々や社業を発展させてきたご先祖様ももちろん、長年商売を支えてくれた地域の人びとへも向けられているのだ。

こころまちつくろう
KEIHAN
京阪電車

ここは、天然の冷房中。

比叡山延暦寺 根本中堂室
楠葉けい子(大學生)

おけいはん ずっと涼しい比叡山

ケーブルやロープウェイで駆けのぼった山の上は、
絶景あり、花園あり、世界遺産あり。澄んだ空気の中、
爽やかに過ごせる一日が、京阪電車の先にあります。

比叡山横断チケット
比叡山1dayチケット

発売中!
H24.12/2
まで



比叡山延暦寺【にない堂】



【叡山ケーブル】



【叡山ロープウェイ】



ガーデンミュージアム比叡
【花の足湯 フロリアル】

※詳しくは、ホームページまたは京阪電車主要駅でパンフレットをご覧ください。

※室内の撮影は特別な許可を得ております。通常は撮影禁止となっておりますのでご注意ください。

www.okeihan.net

①
京阪の
おけい
はん、